

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府吹田桃山台第1期高層住宅	階数	地上13F/9F
建設地	大阪府吹田市桃山台	構造	RC造
用途地域	第1種中高層、31m第3種高度地区	平均居住人員	470人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2019年11月5日
敷地面積	4,301㎡	作成者	株式会社藤和設計
建築面積	959㎡	確認日	2019年11月5日
延床面積	8,607㎡	確認者	下川 貴司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 府営住宅として、安全性・経済性を重視した良質な住環境を創出し、人と街にやさしい『まちづくり』を行います。		その他 特にありません。
Q1 室内環境 各住戸にはバルコニーを設け、採光・通風を確保し、各住戸の遮音性能については、重量床衝撃音対策等級2を確保し、断熱性能については、省エネルギー対策等級3を確保しております。	Q2 サービス性能 バリアフリー新法の『移動円滑化誘導基準』を満たし、車椅子利用者・高齢者にも配慮しております。	Q3 室外環境(敷地内) 景観については単調なデザインを避ける為、低層部と高層部には色彩の変化をつけております。また、死角の無い計画とする事で、防犯面にも配慮しております。
LR1 エネルギー 各住戸は、外皮に2方向面しており、自然通風・自然採光を確保する計画としております。	LR2 資源・マテリアル 床フローリング下にはパーティクルボードを使用しております。	LR3 敷地外環境 敷地内には、雨水貯留槽を設ける事で都市洪水等に配慮しております。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0104

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪府営吹田桃山台第1期高層住宅(建て替え)新築工事(第3工区)					
	建設地	大阪府吹田市桃山台					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					3	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		